

円に内接する四角形 ABPC は次の条件 (イ), (ロ) を満たすとする。

(イ) 三角形 ABC は正三角形である。

(ロ) AP と BC の交点は線分 BC を $p : 1-p$ ($0 < p < 1$) の比に内分する。

このとき、ベクトル \overrightarrow{AP} を \overrightarrow{AB} , \overrightarrow{AC} , p を用いて表せ。

< '00 京都大 >

【戦略 1】

まずは、見た目通りベクトルの問題として処理していきます。

その際、本問において、 $\triangle ABC$ の大きさは結果に影響しません。

つまり、形だけが問題になります。

サイズが関係ないなら、考えやすいサイズ(ここでは 1 辺の長さが 1 の正三角形)で考えていくことにしましょう。

線分 AP と BC の交点を Q とすると、 $\overrightarrow{AQ} = (1-p)\overrightarrow{AB} + p\overrightarrow{AC}$ と容易に表せることから、 $\overrightarrow{AP} = k\overrightarrow{AQ}$ として、 \overrightarrow{AQ} を伸ばして \overrightarrow{AP} を得る方向性で考えていきます。

この倍率 k をどのように特定するのですが、

点 P がこの円に乗っかるような上手い倍率 k

と捉えて、 $|\overrightarrow{OP}| = \text{半径}$ という条件(方程式)から k を特定します。

【解 1】

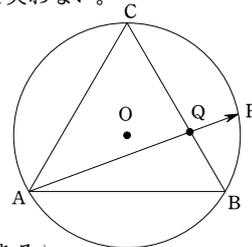
1 辺の長さが 1 の正三角形としても一般性を失わない。

線分 AP, BC の交点を Q とする。

条件(ロ)より $\overrightarrow{AQ} = (1-p)\overrightarrow{AB} + p\overrightarrow{AC}$

$$\overrightarrow{AO} = \frac{\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{AC}}{3} = \frac{1}{3}\overrightarrow{AB} + \frac{1}{3}\overrightarrow{AC}$$

(\because 外接円の中心 O は $\triangle ABC$ の重心でもある)



この外接円の半径 R について、 $\triangle ABC$ で正弦定理を用いると

$$\frac{1}{\sin 60^\circ} = 2R \text{ で、} R = \frac{1}{\sqrt{3}} \text{ を得る。}$$

$$\overrightarrow{AP} = k\overrightarrow{AQ} \text{ とおくと、} \overrightarrow{AP} = (1-p)k\overrightarrow{AB} + pk\overrightarrow{AC}$$

$$|\overrightarrow{OP}| = \frac{1}{\sqrt{3}} \text{ より、} |\overrightarrow{AP} - \overrightarrow{AO}|^2 = \frac{1}{3}$$

$$|\overrightarrow{AP}|^2 - 2\overrightarrow{AP} \cdot \overrightarrow{AO} + |\overrightarrow{AO}|^2 = \frac{1}{3}$$

$$|\overrightarrow{AP}|^2 - 2\overrightarrow{AP} \cdot \overrightarrow{AO} = 0 \dots (*) \left(\because |\overrightarrow{AO}| = R = \frac{1}{\sqrt{3}} \right)$$

ここで、 $|\overrightarrow{AB}| = 1$, $|\overrightarrow{AC}| = 1$, $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} = 1 \cdot 1 \cdot \cos 60^\circ = \frac{1}{2}$ に注意すると

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{AP}|^2 &= |(1-p)k\overrightarrow{AB} + pk\overrightarrow{AC}|^2 \\ &= (1-p)^2 k^2 + p^2 k^2 + 2pk^2(1-p) \cdot \frac{1}{2} \\ &= k^2(p^2 - p + 1) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \overrightarrow{AP} \cdot \overrightarrow{AO} &= \{(1-p)k\overrightarrow{AB} + pk\overrightarrow{AC}\} \cdot \left\{ \frac{1}{3}\overrightarrow{AB} + \frac{1}{3}\overrightarrow{AC} \right\} \\ &= \frac{1}{3} \left\{ (1-p)k + \frac{(1-p)k}{2} + \frac{pk}{2} + pk \right\} \\ &= \frac{k}{2} \end{aligned}$$

$$\text{よって、これらを (*) に代入して、} k^2(p^2 - p + 1) - 2 \cdot \frac{k}{2} = 0$$

$k=0$ とすると、P は A と一致してしまうので、 $k \neq 0$

$$\text{ゆえに、} k(p^2 - p + 1) - 1 = 0 \text{ で、} k = \frac{1}{p^2 - p + 1}$$

$$\therefore \overrightarrow{AP} = \frac{1}{p^2 - p + 1} \{(1-p)\overrightarrow{AB} + p\overrightarrow{AC}\} \dots \text{答}$$

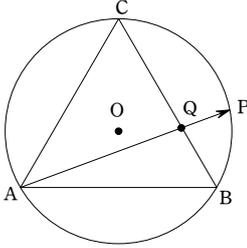
【戦略 2】

【戦略 1】と同様に $\overrightarrow{AP} = k \overrightarrow{AQ}$ として、この倍率 k を特定していく方針は変わりませんが、この倍率 k (P がこの円上にあるような上手い倍率 k) を求める際の翻訳の仕方を幾何的に捉えてみます。

点 P がこの円上にあることの幾何的な翻訳は様々あるでしょうが、 AQ の長さが余弦定理で求まることを考えると、方べきの定理で QP の長さを求められそうですから、これで欲しい倍率が求まりそうです。

【解 2】

1 辺の長さが 1 の正三角形としても一般性を失わない。



$$\triangle ABQ \text{ で余弦定理を用いて } AQ^2 = 1^2 + p^2 - 2 \cdot 1 \cdot p \cdot \cos 60^\circ = 1 - p + p^2$$

$$\text{よって、} AQ = \sqrt{1 - p + p^2}$$

$$\text{方べきの定理より、} BQ \cdot CQ = AQ \cdot QP$$

$$\text{ゆえに、} p(1-p) = \sqrt{1-p+p^2} \cdot QP \text{ で、} QP = \frac{p(1-p)}{\sqrt{1-p+p^2}} \text{ を得る。}$$

$$AP = AQ + QP = \sqrt{1-p+p^2} + \frac{p(1-p)}{\sqrt{1-p+p^2}} = \frac{1}{\sqrt{1-p+p^2}}$$

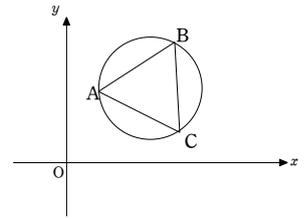
よって

$$\overrightarrow{AP} = \frac{AP}{AQ} \overrightarrow{AQ} = \frac{1}{1-p+p^2} \{ (1-p) \overrightarrow{AB} + p \overrightarrow{AC} \} \dots \text{㊦}$$

【戦略 3】

座標を考えてみます。

座標を設定するときの注意は「上手く」設定することで、右図のように闇雲に設定しても自分で自分の首を絞めるだけです。



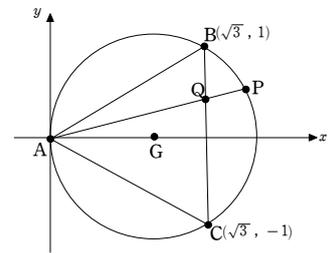
普通は、円の中心を原点に設定することが多いですが、今回は \overrightarrow{AB} , \overrightarrow{AC} という主役のベクトルの始点が A なので、 A を原点にとって考えると都合がよさそうです。

また、 $\triangle ABC$ のサイズは一辺の長さが 2 と設定すると、無駄な分数を回避できますね。

【解 3】

一辺の長さを 2 としても一般性を失わない。

図のように座標を設定する。



円の中心を G とすると、 G は $\triangle ABC$ の重心なので、

$$\begin{aligned} \overrightarrow{AG} &= \frac{1}{3} \overrightarrow{AB} + \frac{1}{3} \overrightarrow{AC} \\ &= \frac{1}{3} \begin{pmatrix} \sqrt{3} \\ 1 \end{pmatrix} + \frac{1}{3} \begin{pmatrix} \sqrt{3} \\ -1 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \frac{2\sqrt{3}}{3} \\ 0 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

よって、この円は中心 $G \left(\frac{2\sqrt{3}}{3}, 0 \right)$ 、半径 $\frac{2\sqrt{3}}{3}$ の円なので

$$\left(x - \frac{2\sqrt{3}}{3} \right)^2 + y^2 = \frac{4}{3} \dots (*)$$

$$\begin{aligned} \text{さて、} \overrightarrow{AQ} &= (1-p) \overrightarrow{AB} + p \overrightarrow{AC} \\ &= (1-p) \begin{pmatrix} \sqrt{3} \\ 1 \end{pmatrix} + p \begin{pmatrix} \sqrt{3} \\ -1 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \sqrt{3} \\ 1-2p \end{pmatrix} \end{aligned}$$

$$\overrightarrow{AP} = k \overrightarrow{AQ} \text{ とすると、} \overrightarrow{AP} = \begin{pmatrix} \sqrt{3}k \\ (1-2p)k \end{pmatrix} \text{ で、} P(\sqrt{3}k, (1-2p)k)$$

$$P \text{ は } (*) \text{ 上の点なので、} \left(\sqrt{3}k - \frac{2\sqrt{3}}{3} \right)^2 + (1-2p)^2 k^2 = \frac{4}{3}$$

$$\text{整理すると } (4p^2 - 4p + 4)k^2 - 4k = 0$$

$$k=0 \text{ とすると、} P \text{ は } A \text{ と一致するので、} k \neq 0$$

$$\text{ゆえに } (p^2 - p + 1)k - 1 = 0, \text{ すなわち } k = \frac{1}{p^2 - p + 1} \text{ を得る。}$$

$$\therefore \overrightarrow{AP} = k \overrightarrow{AQ} = \frac{1}{p^2 - p + 1} \{ (1-p) \overrightarrow{AB} + p \overrightarrow{AC} \} \dots \text{㊦}$$

【総括】

見た目がベクトルの問題でも、最短の解法がベクトルとは限りません。

幾何、座標、ベクトル、(複素数平面)

は相互に行き来できるようにしましょう。

どの分野のまな板の上で料理するかは、トップレベルになればなるほど重要なテーマでしょう。

また、本問は好きなサイズで考えてもよいことを見抜きましょう。

別に一辺の長さを a としてもいいですが、計算が大変になる上に、どうせ約分されて消えてしまいます。

大変な思いをして計算して、「あ〜無駄だった」と気づくのはもったいないことです。

本問の結果は「形のみに左右される」ことは最初から分かっていたのですから。